

## 漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査

### 石川県地域検討会報告書(案)

#### 第IV章 資料編



## 目 次

### 第IV章 資料編

|                   |    |
|-------------------|----|
| 1. 調査の概要          | 1  |
| 1.1 地点別・季節別の変化（量） | 1  |
| 1.2 地点ごとの集計結果     | 5  |
| 1.2.1 地点1         | 5  |
| 1.2.2 地点2         | 8  |
| 1.2.3 地点3         | 11 |
| 1.2.4 地点4         | 14 |
| 1.2.5 地点5         | 17 |



## 第IV章 資料編

### 1. 調査の概要

#### 1.1 地点別・季節別の变化（量）

第1回クリーンアップ調査結果は今までに蓄積した漂着ゴミの累計であり、このときのゴミを回収してセットアップした。第2～6回クリーンアップ調査結果は、前回のクリーンアップ調査終了時から当該回のクリーンアップ調査時まで新たに漂着したゴミであると考えられる。

第1～6回クリーンアップ調査において回収した地点別の漂着ゴミの重量（kg/100 m<sup>2</sup>）を図 1.1-1 に、容量（L/100 m<sup>2</sup>）を図 1.1-2 に示す。地点1、2、3では、冬明けの第3回調査（2008年3月）が重量・容量ともに最も多かった。地点4、5では、セットアップの第1回調査（2007年10月）を除いて、重量・容量ともに、地点4では第6回調査（2008年9月）、地点5では第5回調査（2008年7月）が最も多かった。

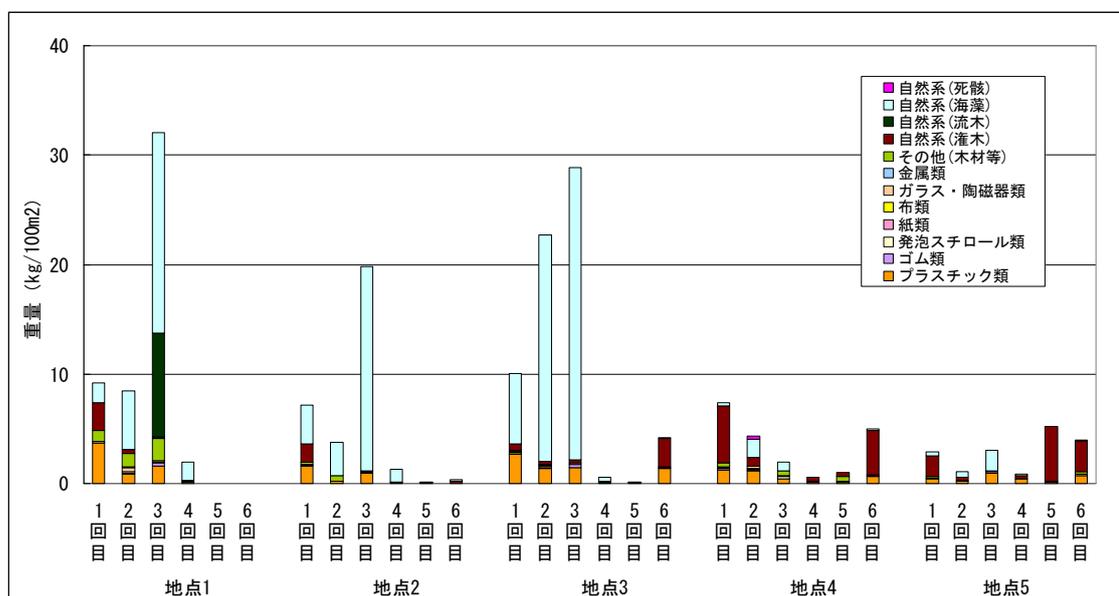


図 1.1-1 共通調査において回収したゴミ重量（第1～6回）

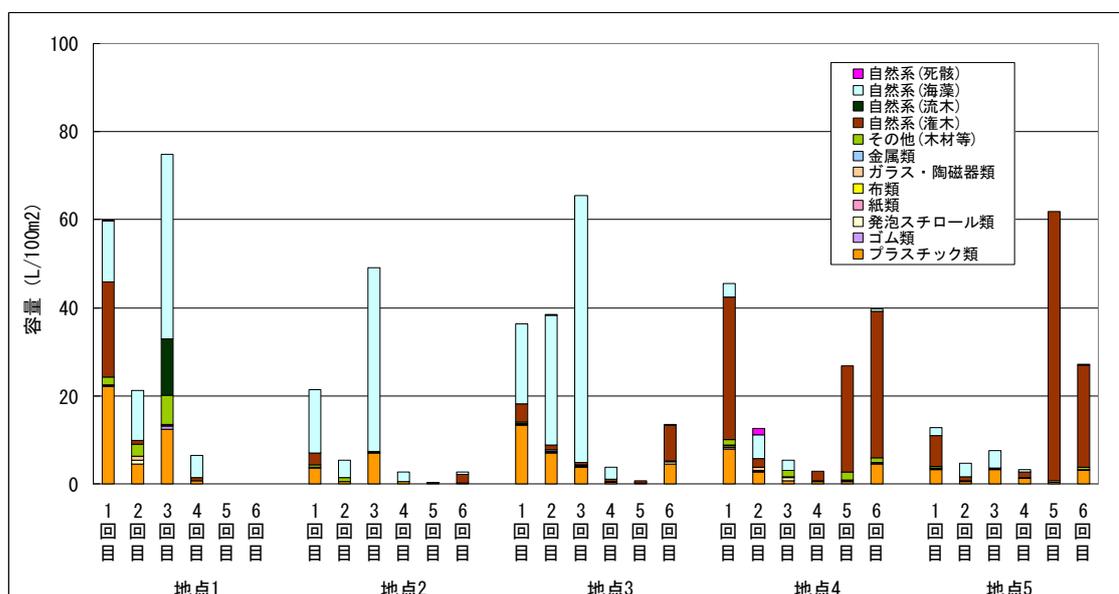


図 1.1-2 共通調査において回収したゴミ容量（第1～6回）

また、海藻は、漂着ゴミの対象としては取り扱っていないため、海藻を除いた地点別の漂着ゴミの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-3 に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-4 に示す。

地点1、2は、セットアップの第1回調査(2007年10月)を除いて、重量・容量ともに、冬明けの第3回調査(2008年3月)が最も多かった。地点3、4は、セットアップの第1回調査(2007年10月)を除いて、重量・容量ともに、第6回調査(2008年9月)が最も多かった。地点5は、重量・容量ともに、第5回調査(2008年7月)が最も多かった。

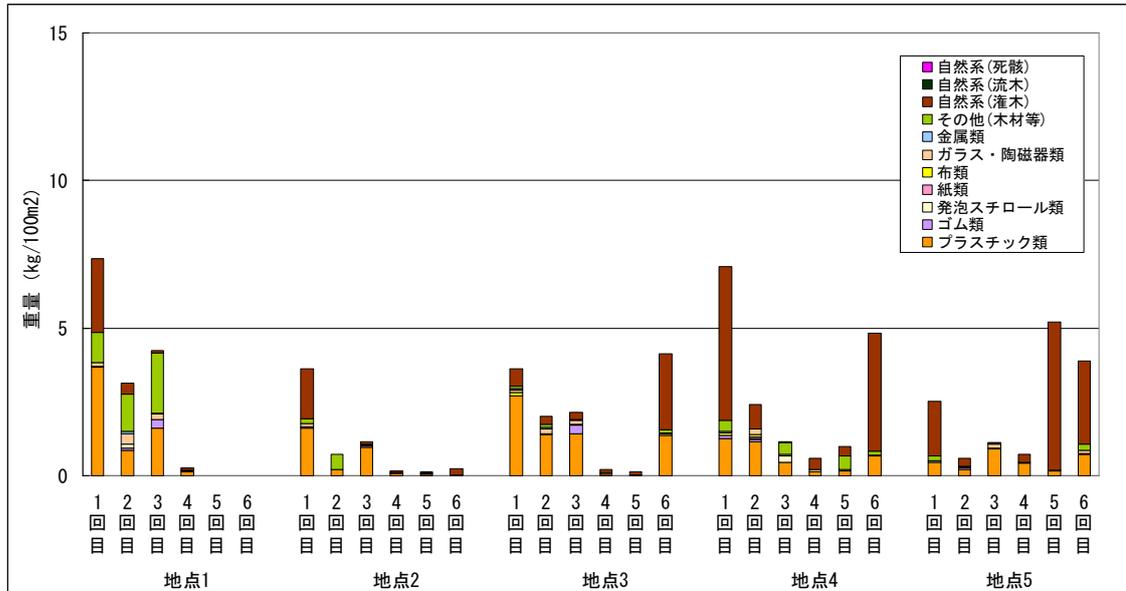


図 1.1-3 共通調査において回収したゴミ重量 (第1~6回: 海藻を除く)

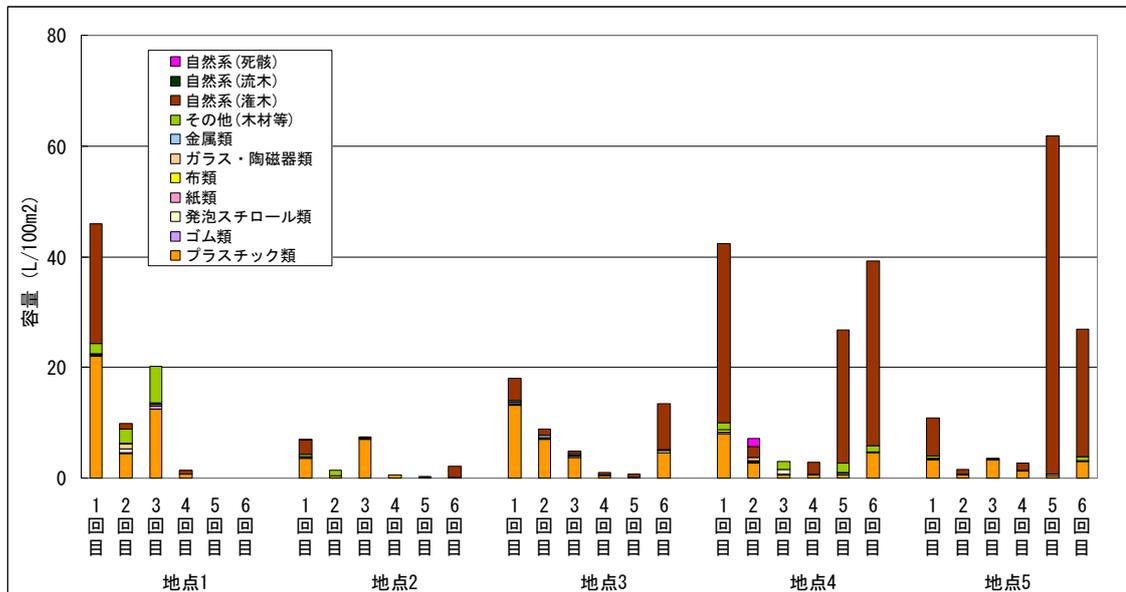


図 1.1-4 共通調査において回収したゴミ容量 (第1~6回: 海藻を除く)

さらに、自然系である流木・灌木も大量に漂着する場合以外、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻、流木・灌木を除いた漂着ゴミの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-5 に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-6 に示す。

地点1、2は、セットアップの第1回調査(2007年10月)を除いて、重量・容量ともに、冬明けの第3回調査(2008年3月)が最も多かった。地点3は、セットアップの第1回調査(2007年10月)を除いて、重量は第3回調査(2008年3月)、容量は第2回調査(2007年12月)が最も多かった。地点4は、セットアップの第1回調査(2007年10月)を除いて、重量は第2回調査(2007年12月)、容量は第6回調査(2008年9月)が最も多かった。地点5は、重量・容量ともに、第6回調査(2008年9月)が最も多かった。

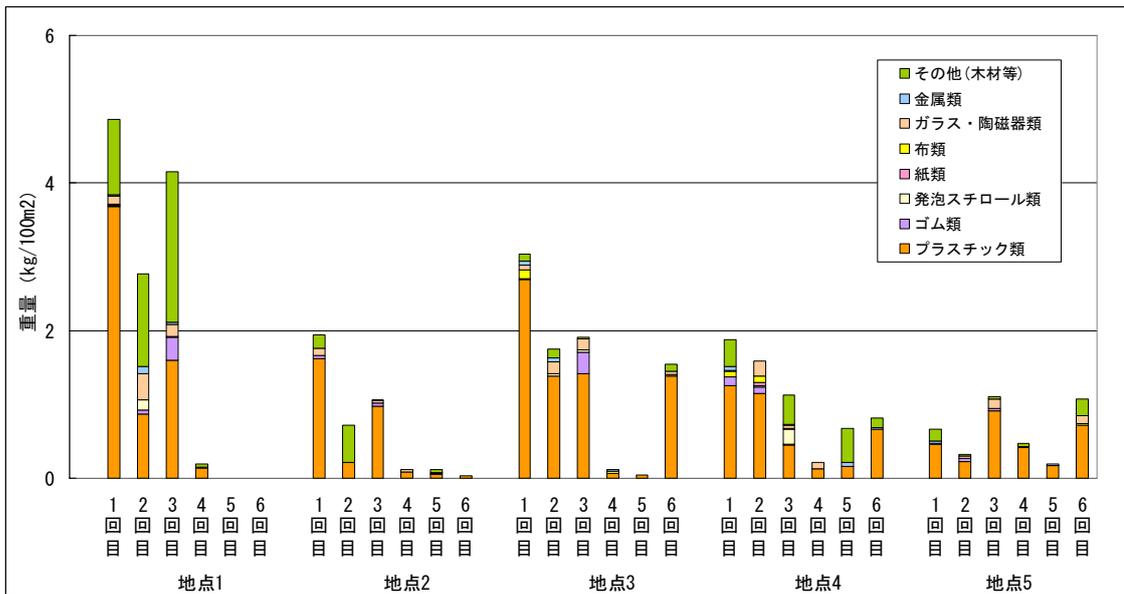


図 1.1-5 共通調査において回収したゴミ重量 (第1~6回: 海藻、流木・灌木を除く)

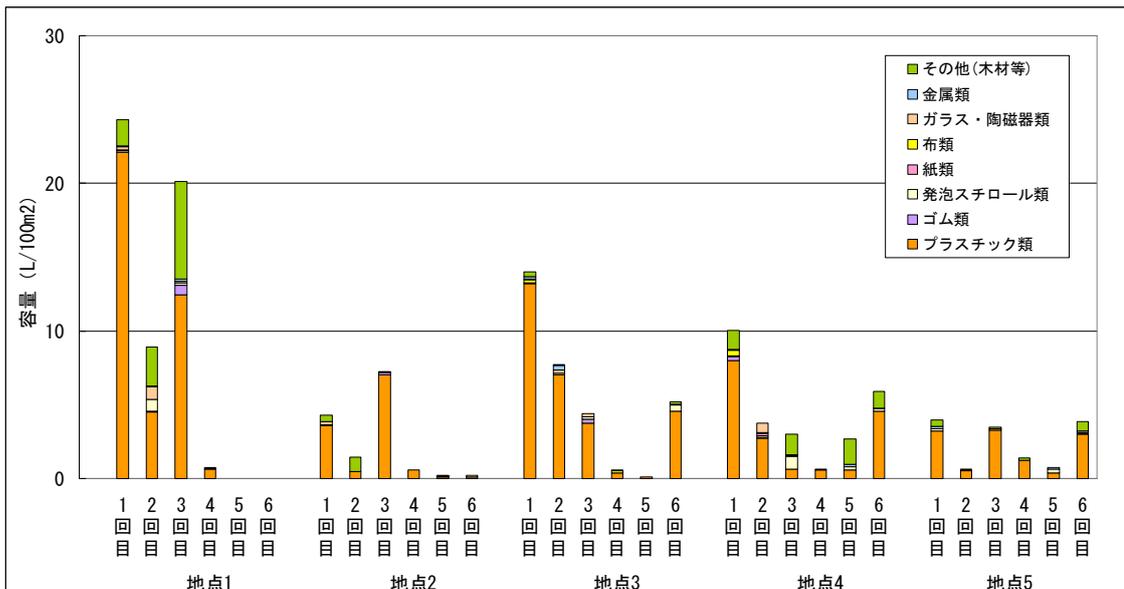


図 1.1-6 共通調査において回収したゴミ容量 (第1~6回: 海藻、流木・灌木を除く)

漂着ゴミの個数(個/100 m<sup>2</sup>)を図 1.1-7 に示す。海藻、灌木は個数を計数できないため、人工物のみを対象とした個数となる。

いずれの地点でも、セットアップの第1回調査(2007年10月)が最も多かった。これを除くと、地点1では、第3回調査(2008年3月)が最も多かった。地点2では、第3回調査(2008年3月)、第5回調査(2008年7月)、第6回調査(2008年9月)が多かった。地点3、4では、第2回調査(2007年12月)が最も多かった。地点5では、第4回調査(2008年4月)、第5回調査(2008年7月)、第6回調査(2008年9月)が多かった。個数の傾向は、あまり明確ではなかった。

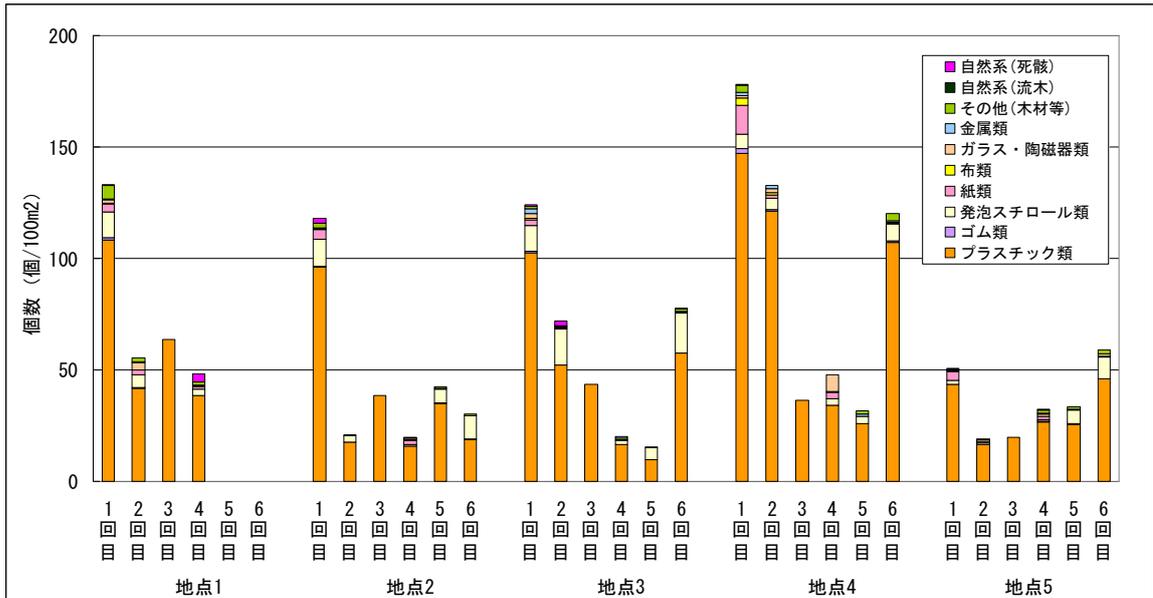


図 1.1-7 共通調査において回収したゴミ個数(第1~6回)

## 1.2 地点ごとの集計結果

### 1.2.1 地点1

第2～6回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミを季節ごとに、かつ大分類ごとに集計した。それらの枠内重量比率と容量比率を図1.2-1、図1.2-2に示す。なお、地点1は、イカリモンハンミョウの保全のために、成虫の活動期である第5回調査（2008年6月）と第6回調査（2008年9月）は実施しなかった。

漂着ゴミの全量は、合計（第2～4回）では重量・容量ともに海藻が最も多かった。季節別でも、第2回調査（2007年12月）から第4回調査（2008年4月）は重量・容量ともに海藻が最も多かった。

次に、海藻は、漂着ゴミの対象としては取り扱っていないため、海藻を除いて集計した。

合計（第2～4回）では、重量は流木が最も多く、容量はプラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）では、重量はその他の人工物（木材・木片）が最も多く、容量はプラスチック類が最も多かった。第3回調査（2008年3月）では、重量は流木が最も多かったが、容量はプラスチック類が最も多かった。第4回調査（2008年4月）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。

さらに、自然系である流木・灌木も大量に漂着する場合以外、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻、流木・灌木を除いて集計した。

合計（第2～4回）では、重量はその他の人工物（木材・木片）が最も多く、容量はプラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）と第3回調査（2008年3月）では、重量はその他の人工物（木材・木片）が最も多く、容量はプラスチック類が最も多かった。第4回調査（2008年4月）では、重量、容量ともにプラスチック類が最も多かった。

地点1は、秋季から冬季にかけての海藻の漂着量が多く、これを除くと、プラスチック類を始め、その他の人工物（木材・木片）、ガラス・陶磁器類、灌木の割合が多かった。さらに、流木・灌木を除くと、プラスチック類の占める割合が多くなり、重量では約30%から約70%、容量では50%から85%を占めていた。その他の人工物（木材・木片）の漂着も比較的多いことも、特徴的であった。

|                           | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回   | 第6回   | 合計(第2~4回) |
|---------------------------|-----|-----|-----|-------|-------|-----------|
| 集計重量<br>(全量)              |     |     |     | (未実施) | (未実施) |           |
| 集計重量<br>(海藻を除く)           |     |     |     | (未実施) | (未実施) |           |
| 集計重量<br>(流木・灌木、<br>海藻を除く) |     |     |     | (未実施) | (未実施) |           |

凡例

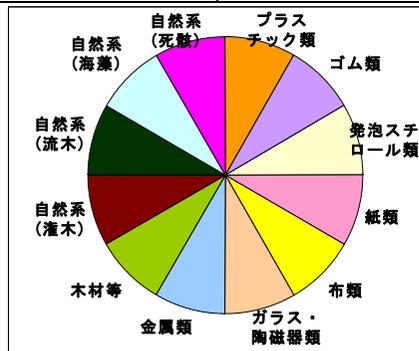


図 1.2-1 重量比率 (地点1)

|                           | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回   | 第6回   | 合計(第2~4回) |
|---------------------------|-----|-----|-----|-------|-------|-----------|
| 集計容量<br>(全量)              |     |     |     | (未実施) | (未実施) |           |
| 集計容量<br>(海藻を除く)           |     |     |     | (未実施) | (未実施) |           |
| 集計容量<br>(流木・灌木、<br>海藻を除く) |     |     |     | (未実施) | (未実施) |           |

凡例

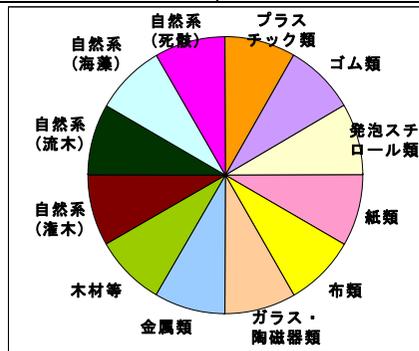


図 1.2-2 容量比率 (地点1)

## 1.2.2 地点2

第2～6回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミを季節ごとに、かつ大分類ごとに集計した。それらの枠内重量比率と容量比率を図1.2-3、図1.2-4に示す。

漂着ゴミの全量は、合計（第2～6回）では重量・容量ともに海藻が最も多かった。季節別でも、第2回調査（2007年12月）から第4回調査（2008年4月）は重量・容量ともに海藻が最も多かった。第5回調査（2008年7月）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多く、第6回目調査（2008年9月）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。

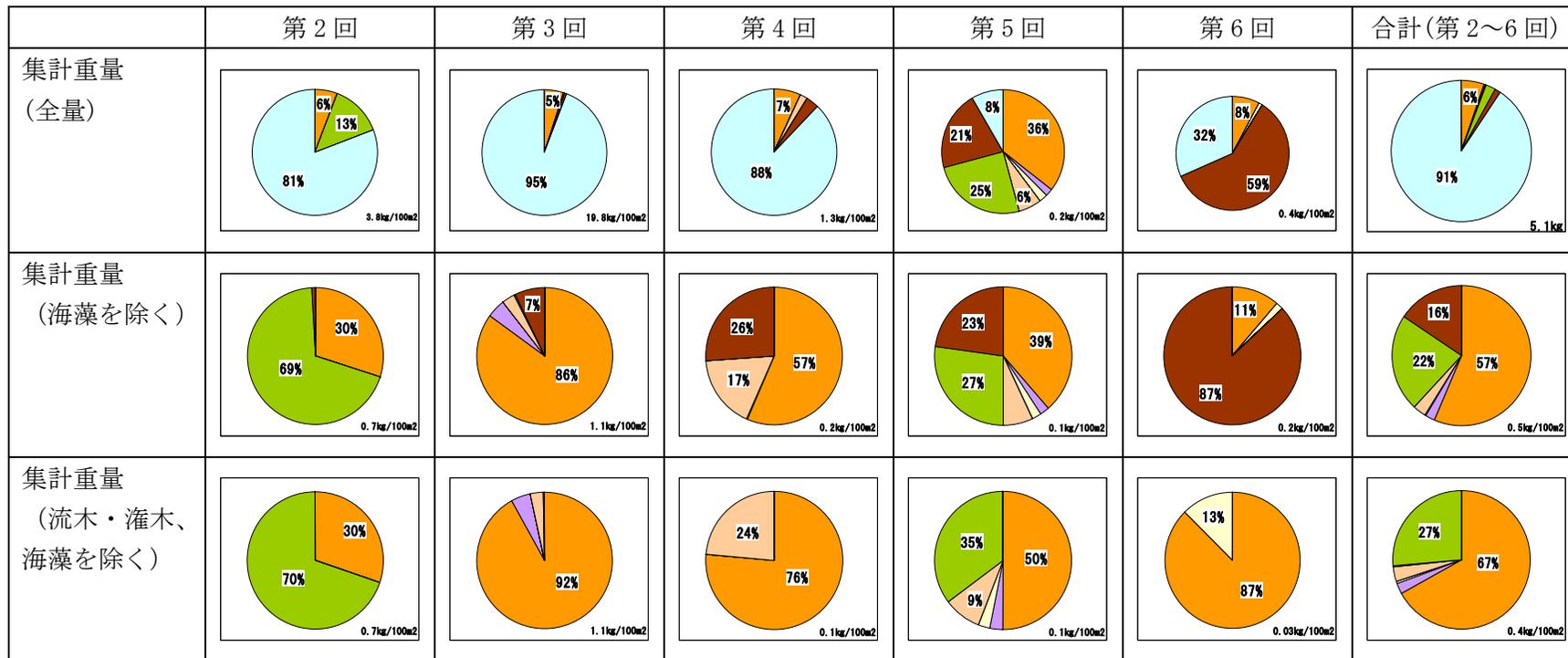
次に、海藻は、漂着ゴミの対象としては取り扱っていないため、海藻を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。第3回調査（2008年3月）から第5回調査（2008年7月）では、重量、容量ともにプラスチック類が最も多かった。第6回調査（2008年9月）では、重量、容量ともに灌木が最も多かった。

さらに、自然系である流木・灌木も大量に漂着する場合以外、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻、流木・灌木を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともに、プラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）では、重量・容量ともに灌木が最も多く、第3回調査（2008年3月）から第6回調査（2008年9月）では、重量、容量ともにプラスチック類が最も多かった。

地点2は、秋季から冬季にかけての海藻の漂着量が多く、これを除くと、プラスチック類を始め、その他の人工物（木材・木片）、ガラス・陶磁器類、夏季の灌木の割合が多かった。さらに、流木・灌木を除くと、プラスチック類の占める割合が多くなり、重量では30%から約90%、容量では約30%から98%を占めていた。その他の人工物（木材・木片）の漂着もやや多いことも、特徴的であった。



凡例

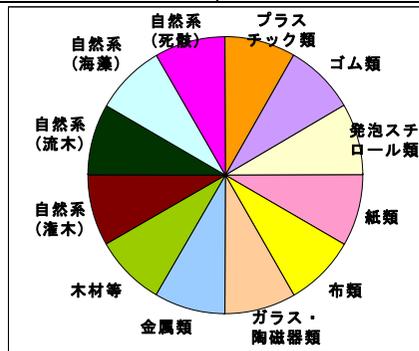
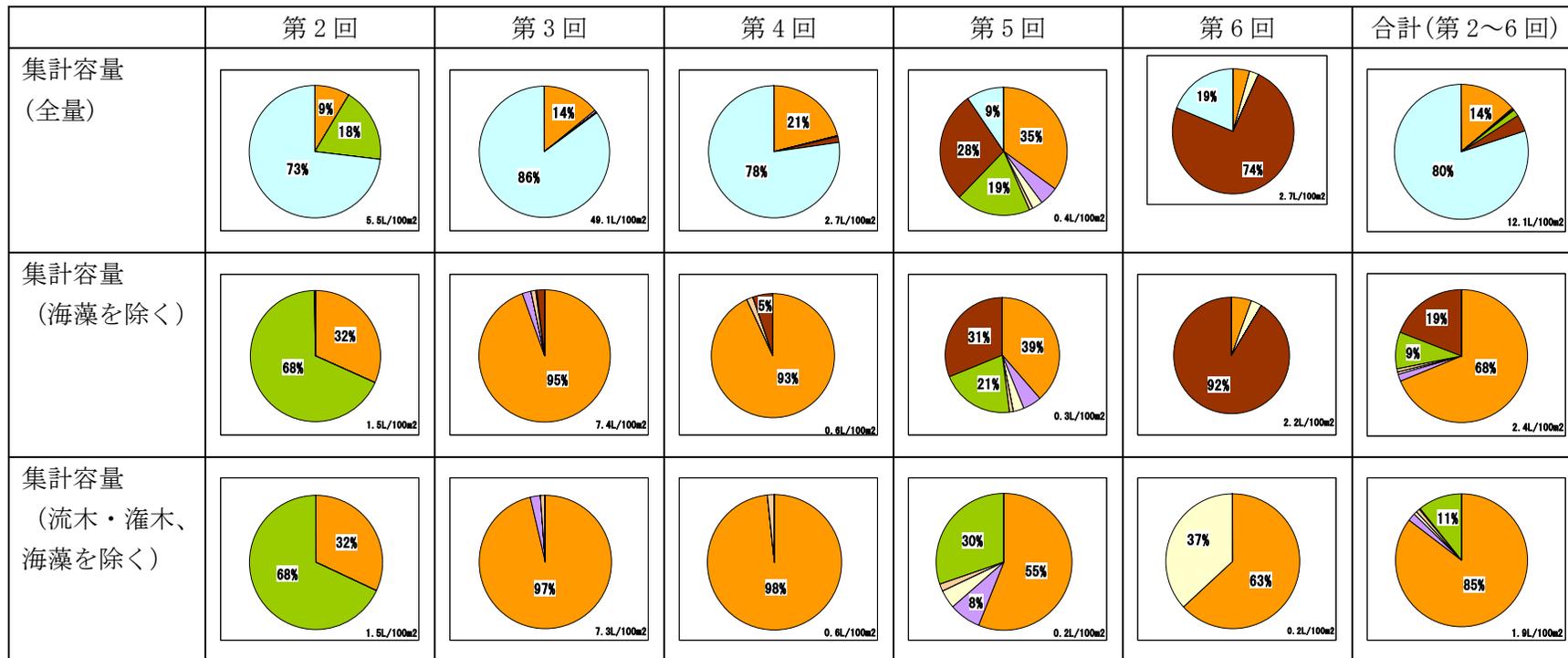


図 1.2-3 重量比率 (地点2)



凡例

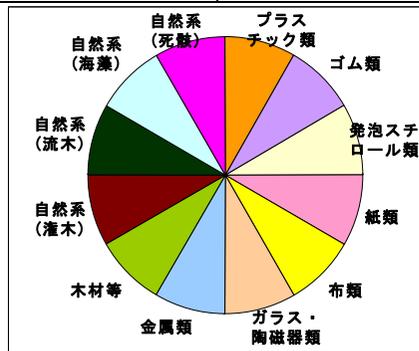


図 1.2-4 容量比率 (地点 2)

### 1.2.3 地点3

第2～6回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミを季節ごとに、かつ大分類ごとに集計した。それらの枠内重量比率と容量比率を図1.2-5、図1.2-6に示す。

漂着ゴミの全量は、合計（第2～6回）では重量・容量ともに海藻が最も多かった。季節別でも、第2回調査（2007年12月）から第4回調査（2008年4月）は重量・容量ともに海藻が最も多かった。第5回調査（2008年7月）と第6回目調査（2008年9月）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。

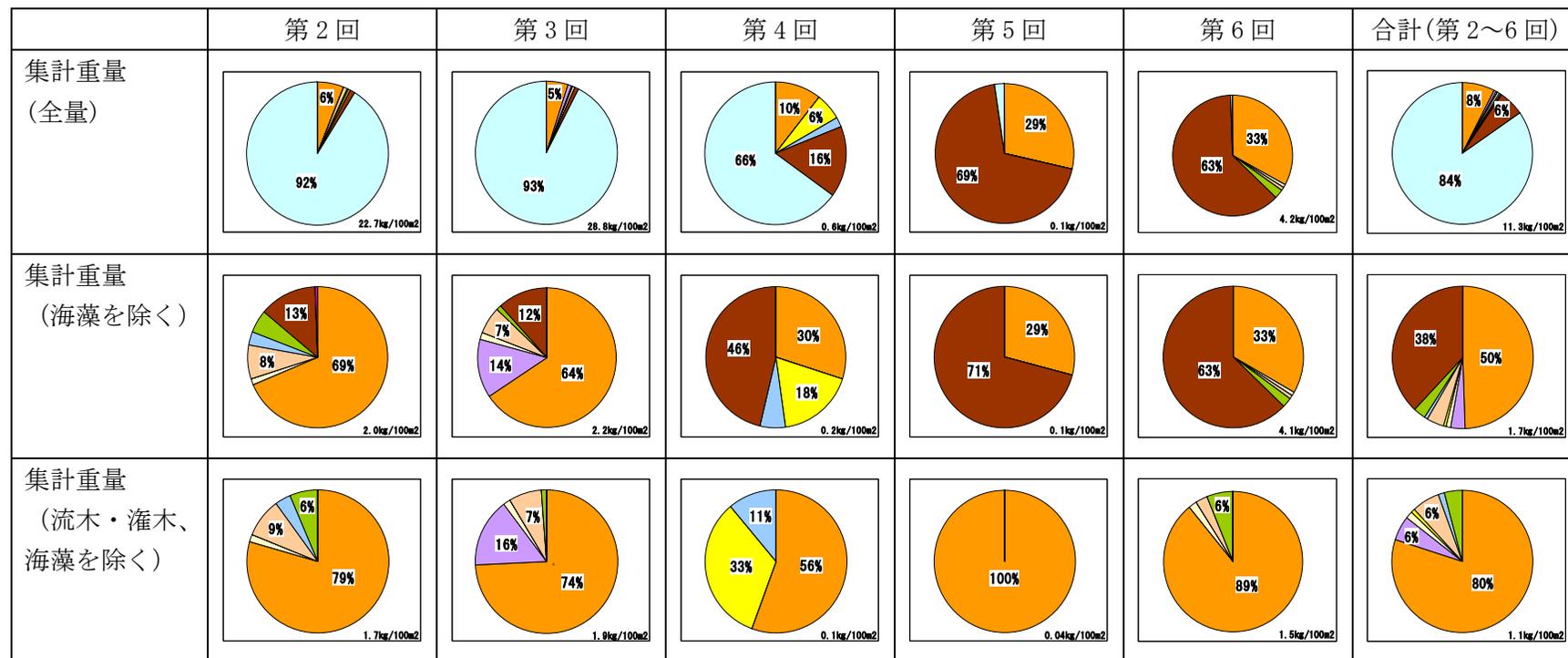
次に、海藻は、漂着ゴミの対象としては取り扱っていないため、海藻を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）と第3回調査（2008年3月）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。第4回調査（2008年4月）から第6回調査（2008年7月）では、重量、容量ともに灌木が最も多かった。

さらに、自然系である流木・灌木も大量に漂着する場合以外、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻、流木・灌木を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともに、プラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）では、重量・容量ともに灌木が最も多く、第3回調査（2008年3月）から第6回調査（2008年9月）では、重量、容量ともにプラスチック類が最も多かった。

地点3は、秋季から冬季にかけての海藻の漂着量が多く、これを除くと、プラスチック類を始め、布類、ゴム類、ガラス・陶磁器類、春季から夏季にかけての灌木の割合が多かった。さらに、流木・灌木を除くと、プラスチック類の占める割合が多くなり、重量では約60%から100%、容量では約70%から90%を占めていた。



凡例

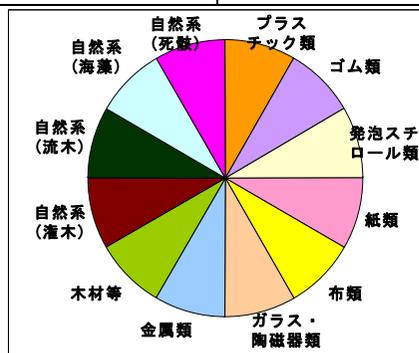
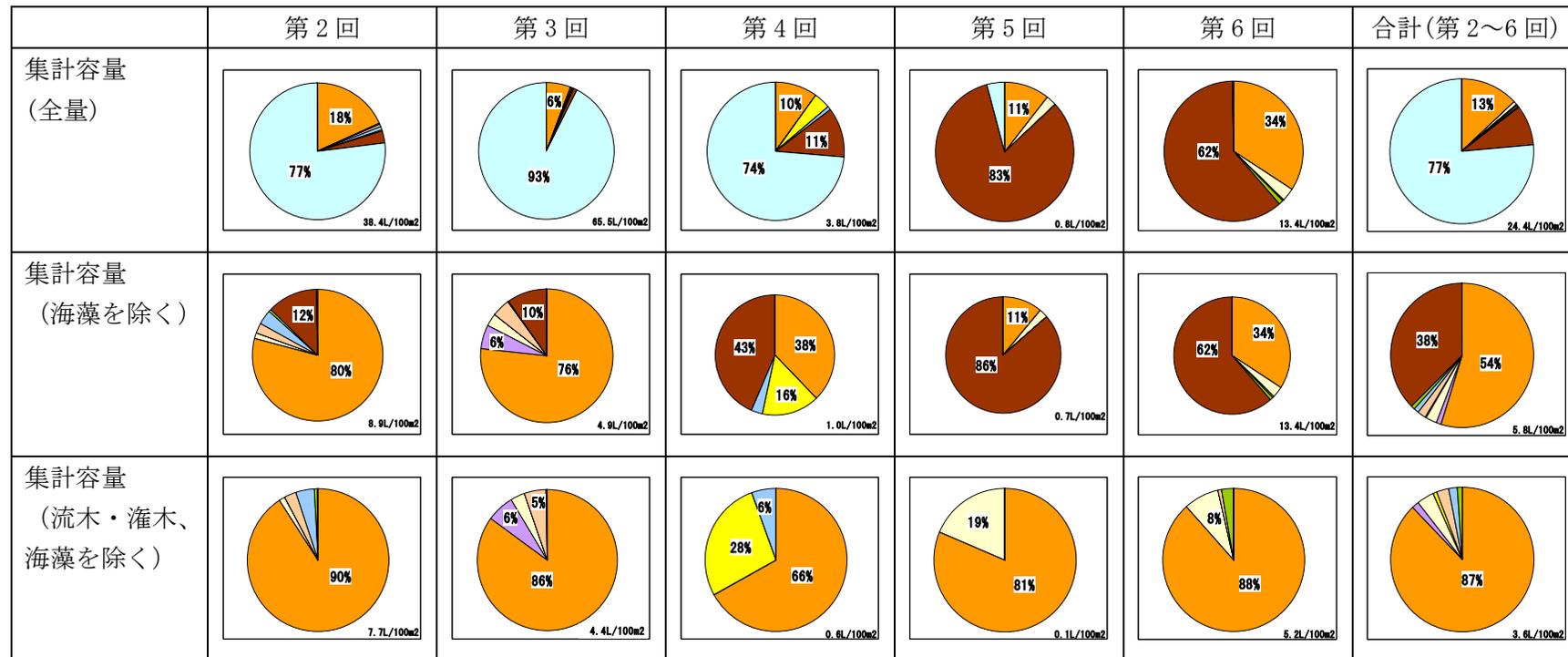


図 1.2-5 重量比率 (地点3)



凡例

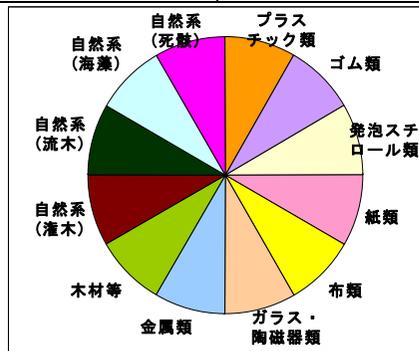


図 1.2-6 容量比率 (地点 3)

#### 1.2.4 地点4

第2～6回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミを季節ごとに、かつ大分類ごとに集計した。それらの枠内重量比率と容量比率を図1.2-7、図1.2-8に示す。

漂着ゴミの全量は、合計（第2～6回）では重量・容量ともに灌木が最も多かった。季節別でも、第2回調査（2007年12月）と第3回調査（2008年3月）は重量・容量ともに海藻が最も多く、第4回調査（2008年4月）と第6回目調査（2008年9月）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。第5回調査（2008年7月）では、重量はその他の人工物（木材・木片）が最も多く、容量は灌木が最も多かった。

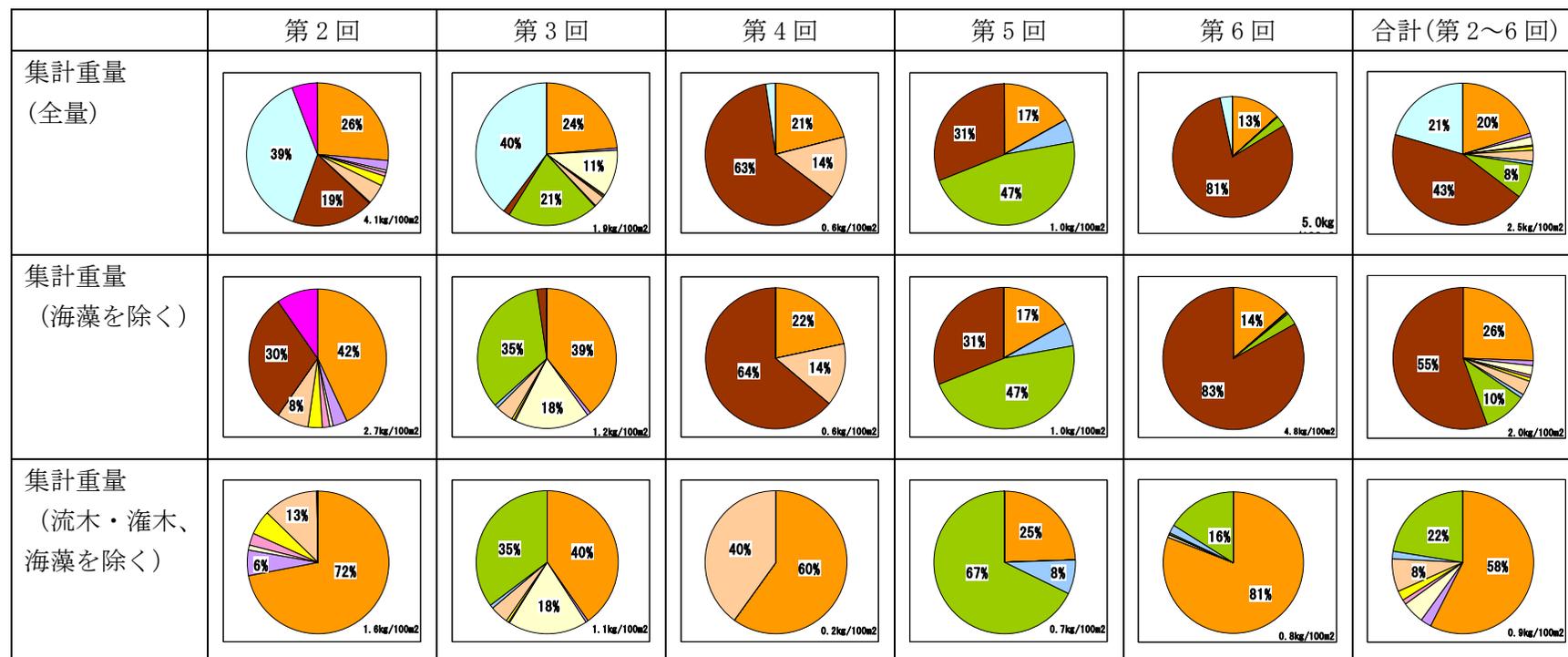
次に、海藻は、漂着ゴミの対象としては取り扱っていないため、海藻を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。第2回調査（2007年12月）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。第3回調査（2008年3月）では、重量はプラスチック類が最も多く、容量はその他の人工物（木材・木片）が最も多かった。第4回調査（2008年4月）と第6回目調査（2008年9月）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。第5回調査（2008年7月）では、重量はその他の人工物（木材・木片）が最も多く、容量は灌木が最も多かった。

さらに、自然系である流木・灌木も大量に漂着する場合以外、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻、流木・灌木を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともに、プラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）、第4回調査（2008年4月）と第6回目調査（2008年9月）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。第3回調査（2008年3月）では、重量はプラスチック類が最も多く、容量はその他の人工物（木材・木片）が最も多かった。第5回調査（2008年7月）では、重量・容量ともに、その他の人工物（木材・木片）が最も多かった。

地点4は、秋季から冬季にかけての海藻の漂着量が多く、これを除くと、プラスチック類を始め、ガラス・陶磁器類、その他の人工物（木材・木片）、春季から夏季にかけての灌木の割合が多かった。さらに、流木・灌木を除くと、プラスチック類の占める割合が多くなり、重量では25%から約80%、容量では約20%から約90%を占めていた。



凡例

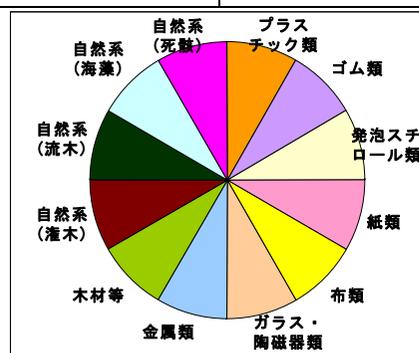
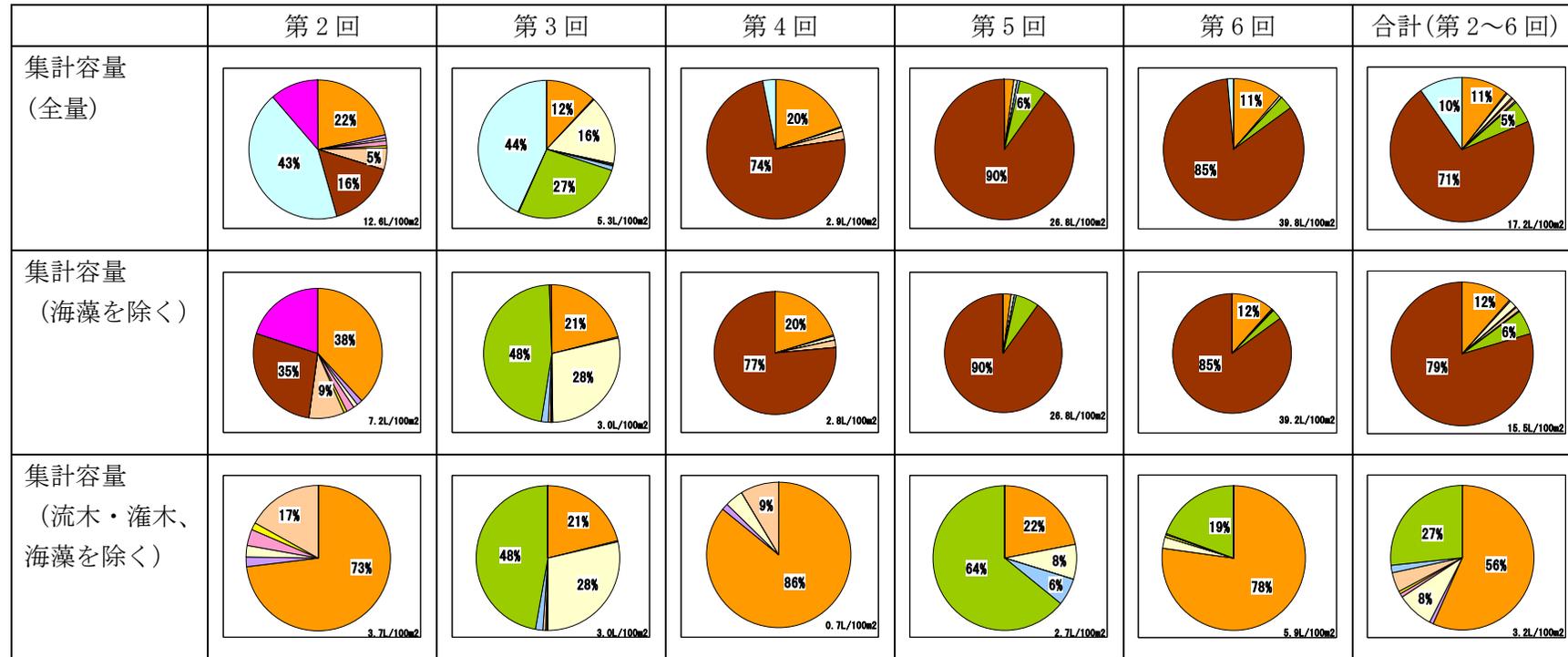


図 1.2-7 重量比率 (地点 4)



凡例

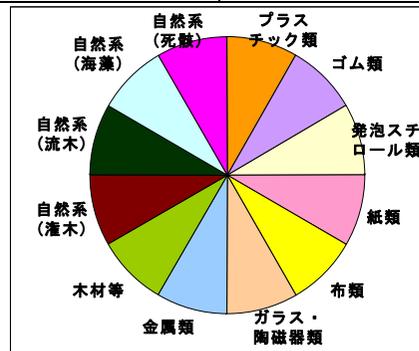


図 1.2-8 容量比率 (地点 4)

### 1.2.5 地点5

第2～6回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミを季節ごとに、かつ大分類ごとに集計した。それらの枠内重量比率と容量比率を図1.2-9、図1.2-10に示す。

漂着ゴミの全量は、合計（第2～6回）では重量・容量ともに灌木が最も多かった。季節別でも、第2回調査（2007年12月）と第3回調査（2008年3月）は重量・容量ともに海藻が最も多く、第4回調査（2008年4月）では、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。第5回調査（2008年7月）と第6回目調査（2008年9月）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。

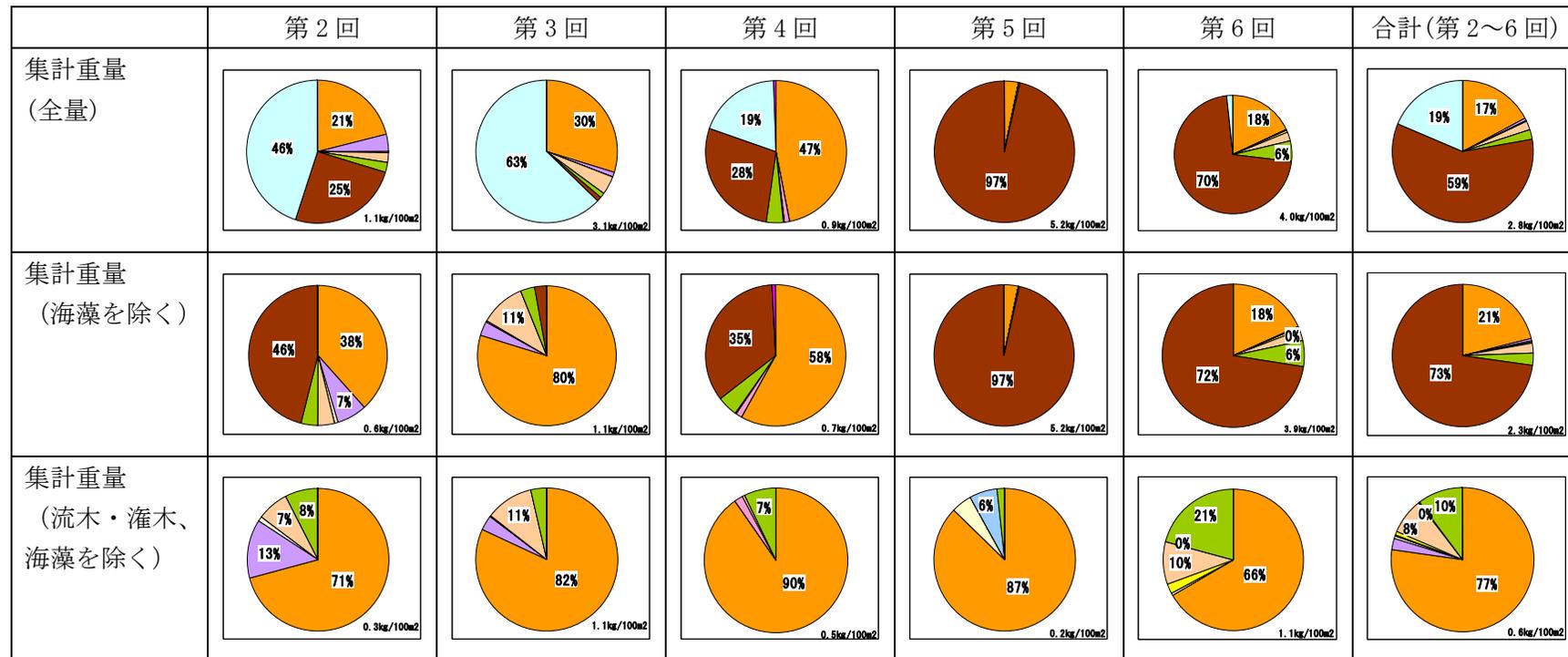
次に、海藻は、漂着ゴミの対象としては取り扱っていないため、海藻を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。第2回調査（2007年12月）では、重量・容量ともに灌木が最も多く、第3回調査（2008年3月）では、重量・容量ともに、プラスチック類が最も多かった。第4回調査（2008年4月）では、重量はプラスチック類が最も多く、容量は灌木が最も多かった。第5回調査（2008年7月）と第6回目調査（2008年9月）では、重量・容量ともに灌木が最も多かった。

さらに、自然系である流木・灌木も大量に漂着する場合以外、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻、流木・灌木を除いて集計した。

合計（第2～6回）では、重量・容量ともに、プラスチック類が最も多かった。第2回調査（2007年12月）から第6回目調査（2008年9月）でも、重量・容量ともにプラスチック類が最も多かった。

地点5は、秋季から冬季にかけての海藻の漂着量が多く、これを除くと、プラスチック類を始め、ガラス・陶磁器類、その他の人工物（木材・木片）、春季から夏季にかけての灌木の割合が多かった。さらに、流木・灌木を除くと、プラスチック類の占める割合が多くなり、重量では約60%から90%、容量では約50%から約90%を占めていた。



凡例

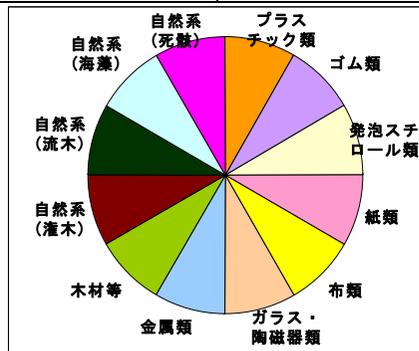
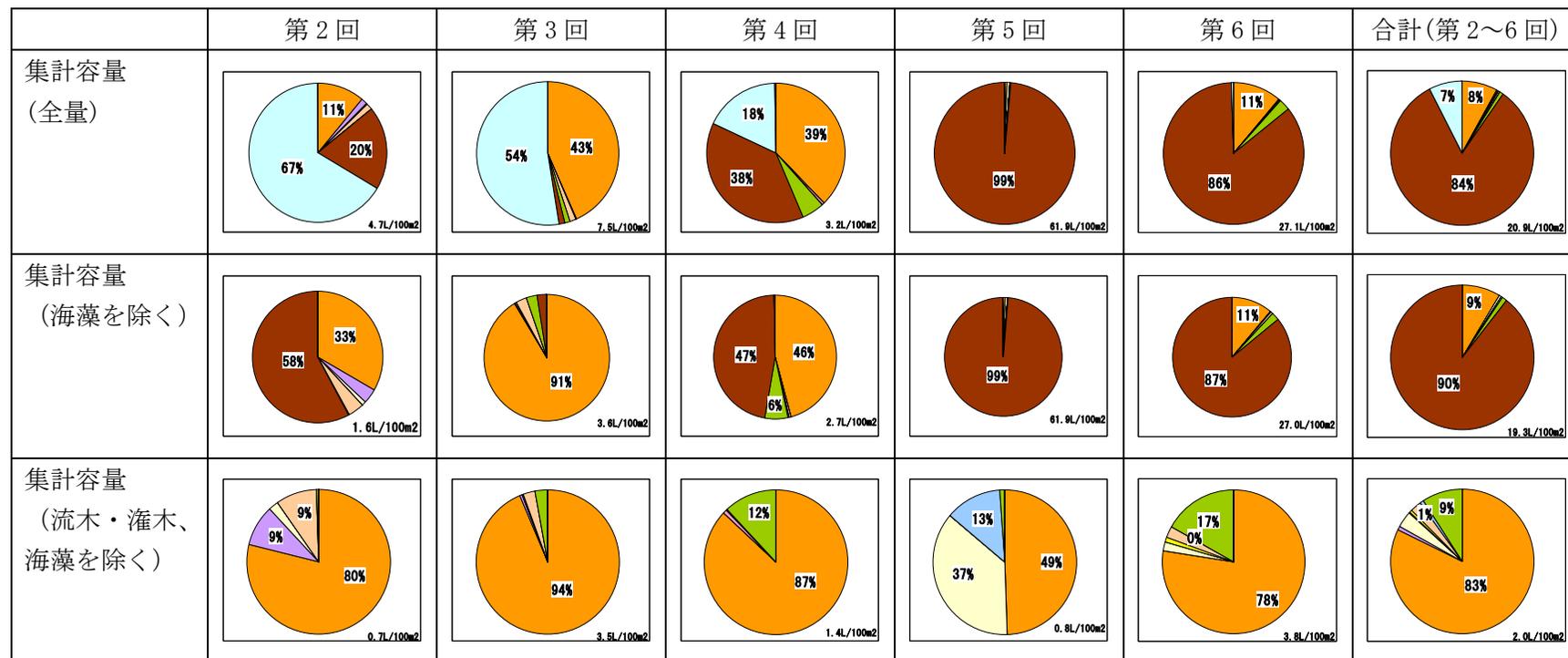


図 1.2-9 重量比率 (地点 5)



凡例

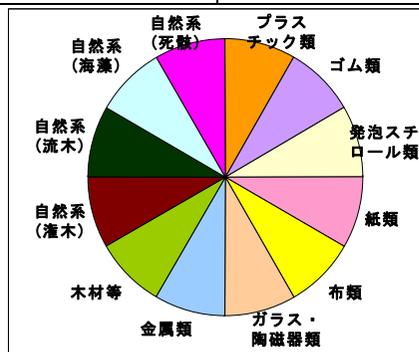


図 1.2-10 容量比率 (地点 5)

